

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	災害時における避難生活体験（避難所開設と対象者に合わせたパッキング）および健康二次被害の予防に関する講座
事業主体 (連絡先)	学校法人高松学園 飯田女子短期大学
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,660,382 円 (うち支援金: 1,316,000 円)

事業内容

災害はいつ起こるかわからない。本事業は、慣れない避難生活における「①避難生活に対する具体的なイメージづくりの醸成」として「災害時における避難生活体験」、「②効果的な健康二次被害予防行動に関する知識の獲得」として「健康二次被害の予防に関する講座」、「③災害時における調理の工夫技術獲得」として「災害時の食事を体験してみよう」を開催した。また、講座開催時の使用冊子として「健康二次被害を考える」と「災害時に役立つ パッキングに挑戦！」を作成した。



【テント設営の様子】

【目標・ねらい】

事業効果

事業実施前と実施後にアンケートを実施し、効果を確認した。  
 ①「日ごろからの助け合いが必要」で非常にあてはまると回答した割合は、講習前85%から講習後97%と上昇した。  
 ②「避難所で健康に過ごす工夫を知っておく必要がある」について、講習前82%から講習後97%と上昇した。  
 ③「避難所ではお互いに助け合うべきだ」で非常にあてはまると回答した割合は、講習前76%から講習後93%と上昇した。「避難所では自分でできることは自分ですべきだ」で非常にあてはまると回答した参加者は、講習前67%から講習後85%と上昇した。  
 ④パッキング体験後、災害が起こった時にパッキングをしてみようと思うかの質問に関して、「パッキングをしようと思う」81%、「どちらかというともうしようと思う」19%、「しようと思わない」0%であり、災害時の調理法の1つとして関心を持ってもらう事が出来た。

- ①災害時の地域における助け合いの必要性
- ②避難所での健康二次被害の予防方法のポイントの理解
- ③避難所における「自助」と「共助」の重要性への関心
- ④災害時における調理方法および非常食の活用への関心

※自己評価【 A 】

【理由】

住民の方に、積極的に参加してもらえたこと。実際に体験した内容はおおむね満足の内であり、再度こうした活動に参加したいという意欲や、他の人に伝えたいという前向きな意思がみられたため。

今後の取り組み

令和3年は台風ではなく、集中豪雨などで土砂災害が起こるなどの自然災害を身近に経験した。これらの経験から、「いつ」、「どのような状況になったときに」、「どのように避難するのか」を平時から考えておく必要性を強く感じた。避難生活はいくつかの家族単位で集まって送ることになる可能性が高い。令和3年度は主に自治体の防災訓練などに合わせて、「避難所の生活スペースの体験」、「健康二次被害の予防方法」、「災害時の食事をどのように確保するか」という視点で実施した。令和4年度はさらに「家族単位での避難所体験」として家族での参加者を募集し、昨年度の取組みに「わが家の避難計画・マイタイムラインの作成」を加えて避難計画から避難所体験までを実施することにより、さらなる地域防災力の向上を目指す。